

質問者 福原議員	答弁者	村長	産業課
大規模草地育成牧場、道営事業の概要について 大規模草地育成牧場では、平成30年に現指定管理者に切り替わる際、当時指定管理者の代表者であったことから従来の牧場の多くの問題点、改善点などを指摘させていただいたところであり、来年度から計画されている『道営草地畜産基盤整備事業（公共牧場整備）』には大きな関心を寄せているところでもあります。 当時指摘させていただいた中で最も大きな二つの問題「老朽化し作業性の悪い牛舎」、「更新のされることのない永年放牧地」については、今回の事業でどのように改善されるのか、また、収容頭数はどれくらい増やせるのかなど、大きな期待をもって事業の詳細を心待ちにしているところでもあります、来年度からの事業ということで既に決定されたこともあろうかと思しますので以上を踏まえ、以下2点について伺います。 1. 道営草地畜産基盤整備事業の計画概要（内容）について 2. 概算費用の規模と負担割合について			
道営草地畜産基盤整備事業を活用した大規模草地育成牧場の整備についてですが、現在、使用している400頭が入る牛舎につきましては、昭和53年に建てられた施設で老朽化が進んでいること、当時と現在では、牛の個体も大きくなり、牛床の大きさなど設備が現在の体格に合っていないなど、福原議員がご指摘のとおり抜本的な見直しが必要となっております。こうした状況を踏まえ、道営事業による整備を検討し、新たに500頭規模の牛舎を現在の南札内基地前に整備するとともに、この間、手つかずであった各放牧区の草地更新も行う予定としております。 1点目の計画概要についてですが、整備を予定している施設は、育成舎250頭規模が2棟、事務所1棟、飼料保管用バンカーサイロ及びロールサイレージ置き場、そして堆肥舎1棟です。 牛舎には、自動的に糞尿を堆肥舎へ送り込む徐糞用ケープ			

ルクリーナー等を設置し、作業能率の向上と牧場従業員の負担軽減を図ります。

また、草地更新では、南札内基地周辺及び元更別牧区を中心に整備改良面積は314.7ha、造成改良面積が15.4haを予定しています。なお、基地から遠い西札内牧区の奥地や南札内の一部は、起伏が大きくて作業しづらく、放牧にも適していない等の理由から、今後も有効な利用が見込まれないと判断し、今回は更新をしない方針です。

2点目の概算費用と負担割合についてですが、今回の事業は令和6年度から令和11年度までの6年間で整備するもので、総額28億円と見込んでおります。その内訳は、草地更新等の面整備で8億1,500万円、施設整備で18億4,500万円、機械等購入費1億4,000万円となります。

費用負担の割合については、国及び道の負担が75%、地元負担は25%となっており、本村の負担額は7億円との見込みです。なお、村負担分の財源につきましては、地方交付税算入率80%の辺地対策事業債を活用することで、関係機関と協議を行っております。

また、施設整備分における事業費の7.5%分 約1億3,800万円分については、受益者に負担していただくことで整理したいと考えております。国営事業で面整備等を行った場合も、地域負担25%のうち7.5%を受益者負担としていることから、数値設定の根拠といたしました。

なお、今回説明した事業計画は現時点でのもので、今後も細部については一部変更する場合もございます。

村としましては、今後も村内酪農家や関係機関と連携しながら協議を進め、令和6年度からの事業が円滑に進められるよう取り組んでまいります。